

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	都市ブランド創造局スポーツ部スポーツ振興課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	新門司地区スポーツ施設	施設類型	目的・機能
	所 在 地	北九州市門司区新門司北二丁目6番2号	I	②
	設置目的	スポーツの普及及び振興を図り、市民の心身の健全な発達及び明るく豊かな市民生活を形成に資する		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	特定非営利活動法人北九州フットボールクラブ		
	所 在 地	北九州市門司区新門司北二丁目6番2号		
指定管理業務の内容		1 管理運営に関する業務 ・ 受付、使用許可に関する業務（利用調整、許可に係る業務） ・ 清掃、警備、建物等保守点検業務 2 その他管理運営業務 ・ 事業計画書及び収支計画書の提出 ・ 関係機関との連絡調整 ・ 地域や類似施設との連携に関する業務 3 利用促進に関する業務 ・ イベントや広報活動等による利用促進など 4 自主事業 ・ 市民のスポーツ振興に資する事業（スポーツ教室等）等の実施など		
指定期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 (評価結果)
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	36
(1) 施設の設置目的 の達成	3	3	硬式や軟式のテニス大会を年間 15回、大規模サッカー大会を年 間3回開催など自主事業の開催 や近隣の中学校や高校の部活動 利用を積極的な誘致が利用者の 増加につながっている。また、仮 設トイレを自主的に設け、利用者 の利便性向上が図られている。	35	21
(2) 利用者の満足度	5	5	施設満足度 96.6%、職員対応 99.8%と極めて高く、高品質なサ ービスを提供されている。全職員 での情報共有により利用者の声 を反映し、HP や広報誌を介して大 会情報等をタイムリーに発信し ている。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				30	18
(1) 経費の低減等	3	3	天然芝の維持管理に多額の費用 を要する一方で、節電・節水など により、その他の諸経費を可能な 限り抑制し、全体的な経費の低減 に努められている。また、清掃や 除草を直営で行うことにより、経 費の削減に努めている。	20	12
(2) 収入の増加	3	3	平日夕方の時間帯において、近隣 の中学校や高校の部活動利用を 積極的に誘致し、施設の有効活用 を図るとともに、地域のスポーツ 活動支援に寄与している。	10	6

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	12
(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) の実施状況	5	3	各種講習会を実施により、資質や能力向上を行っている。テニスやサッカーにおいて、地域に密着した団体主催の大会を実施しており、地域や関係団体との連携や協働が図られている。概ね市の求める水準での適切な管理がされている。	10	6
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制 など	5	3	個人情報の取り扱いについては、規定に基づき収集・管理を適切に行っている。また、熱中症対策や災害、非常時の対策は講じられている。概ね市の求める水準での適切な管理がされている。 一方、天然芝第2グラウンドは一般利用が主とされているが、トップチームの利用が多いため、今後改善が望まれる。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる (80点以上) B：やや優れていると認められる (70点以上80点未満) C：適正であると認められる (60点以上70点未満) D：努力が必要であると認められる (50点以上60点未満) E：かなりの努力が必要であると認められる (50点未満)				合計	100
				総合評価ランク (A～E)	C

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

大規模大会の開催や近隣の中学校や高校の部活動利用の誘致により、利用者の増加につながっている。また、利用者からの評価は高く、今後も同様に維持していくことが望ましい。管理運営面では、経費の節減や収入増加に対する取組がなされており、安全対策や危機管理体制も適切に行われている。一方、天然芝第2グラウンドでは、一般利用を主とされているが、トップチーム利用が多いことから、今後改善が望まれる。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

今年度は評価検討会議における意見聴取なし。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	66	—	—	—	—	66

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶ 1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（＋5年間）を認めるもの。

※低評価のパナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶ 最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	新門司地区スポーツ施設
	所 在 地	北九州市門司区新門司北二丁目6番2号
指定管理者 （自己評価者）	名 称	特定非営利活動法人北九州フットボールクラブ
	所 在 地	北九州市門司区新門司北二丁目6番2号
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
自主事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
硬式テニス大会事業	☑	○	
軟式テニス大会事業	☑	○	
ジュニアサッカー大会事業	☑	○	
少年サッカー教室事業	☑	○	
軟式テニス教室事業	☑	×	令和8年度から実施予定
	□		

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		
(1) 施設の設置目的の達成		評価レベル (0～5)
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。		3
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。		
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。		
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		
【評価の理由、要因・原因分析】		
① 本施設の管理運営において他の類似施設と大きく異なるところは、天然芝球技場がサッカーJリーグ3部に所属するギラヴァンツ北九州の練習場となっている点である。令和7年度は、天然芝2面を年間280日間交互に使用してきたが、一般にサッカーやラグビーの試合や練習で使用する天然芝グラウンドの標準使用日数は年間30日～40日と言われている。それに対して本施設では天然芝1面につき標準使用日数の4～5倍使用していることになる。 また、天然芝以外の施設（人工芝球技場、庭球場、運動場）を一般利用者とのバランスを取りながら最大限活用し、サッカー、ラグビー、テニス等の大会や公式戦を数多く開催し、結果として年間来場者が初めて10万人を超えることができた。これによって施設の利用促進という設置目的の達成に繋がったものと考えている。		
② 施設利用者の増加を図る取り組みとして積極的に自主事業の運営に取り組んだことである。硬式テニスと軟式テニスの大会を合せて年間15回開催し、また大規模なサッカー大会（少年＆女子）を年3回開催し、更には毎月1回少年サッカー教室を開講するなどして施設利用のリピーター増加に結びつけた。 ・施設の年間利用調整の段階で、当初予定されていた大会や公式戦が諸事情により中止または他会場への変更となった場合に速やかに一般利用者が予約できるように処理することで施設利用のロスを最小化し、結果として利用者の増加に繋がった。 ・平日の施設利用促進の一環として取り組んだのが、平日夕方の学校部活の場所として本施設が利用しやすいのではないかと考えて、近郊の高校や中学に照会をかけたところ、マイクロバスを所有する高校や徒歩で来ることができる学校の利用が徐々に増え利用者の増加となった。 ・人工芝球技場における大会等でのトイレ不足を解消するため、仮設トイレを設置したが、トイレ使用時に必要となる水洗用給水タンクの水（トータルで約500ℓ）を施設職員が人力で補充し、利用者への便宜を図ってきた。		

・本施設において大規模なサッカー大会とギラヴァンツ北九州の公開トレーニングマッチが日曜日などに重なるケースがあったが、その際に駐車場の確保が問題となってきた。そこで施設周辺の除草作業を定期的を実施することで100台余りの駐車が可能となり、施設来場者の駐車場不足の問題を解消することで利用者の便宜を図ってきた。

- ③ 施設間の有機的連携としては、人工芝球技場や庭球場で大規模な大会等が開催される際に、選手の試合前のアップ場として運動場を開放することで、主催者に変感謝されてきた。また、ギラヴァンツ北九州が定期的にトレーニングマッチをする際に、管理棟内の各部屋を相手チームや審判の控室として提供してきたが、今後も可能な限り継続して協力していきたい。
- ④ 例年同様にホームページで施設の年間利用予定やテニス大会の案内並びに大会結果、施設からのお知らせなど、各種の情報を発信した。その結果、近年では北九州市内のみならず下関市、苅田町、行橋市など近郊の地域からの来場者も増えてきた。

(単位：人)

【利用者数】	令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
要求水準	79,400	97,000	97,000	97,000	97,000	97,000
目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実績	93,960	100,944	—	—	—	—

※ 令和7年度・・・評価対象年度

施設の設置目的の達成に関する取り組みについては、当初の計画に則って、適切な管理運営を行うことで施設の利用促進が図られ、結果として10万人の利用者数を確保できた。

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

5

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 令和7年度のアンケート調査結果は、「施設利用の感想」で96.6%から良好な評価を得ることができた。「テニスコートブラシの交換を希望」「日陰がない」「トイレを整備してほしい」といった声があったが、順次改善した。
- 次に、「職員の対応・マナー」については、99.8%から良好な評価を頂いている。
- ② 施設利用者からの声を聴くためにロビーに「ご意見・ご要望」の用紙を随時設置して、その声を施設の管理運営に反映させたが、同時に平素から窓口で利用者とのコミュニケーションを図ることを重視し、利用者の要望に可能な限り迅速に対応した。

- ③ 接客業の基本として、利用者から施設に対して苦情や要望などの意見が出しやすい環境となるように努めてきたが、同時に職員間のコミュニケーションづくりも大切にしてきた。そのためのツールとして業務日誌を重視し、利用者からの声が全職員に届くように職員間での情報共有を促進してきた。その結果、施設の管理運営上におけるミスを最小化することができた。
- ④ 各種大会の予定や結果さらには施設の利用情報などをホームページや広報誌で積極的に情報発信して、利用者の便宜を図ってきた。
- ⑤ 職員の「情報伝達力」を高めるために、基本的な情報の再確認と窓口業務の処理スキルの向上を図る取り組みを積極的に行ってきた。

施設利用満足度	令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
要求水準	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%
目標値	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
実績	95.2%	96.6%	—	—	—	—
有効回答数	290人	435人	—	—	—	—

※ 令和7年度・・・評価対象年度

職員対応満足度	令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
要求水準	80%	80%	80%	80%	80%	80%
目標値	98%	98%	98%	98%	98%	98%
実績	96.2%	99.8%	—	—	—	—
有効回答数	290人	412人	—	—	—	—

※ 令和7年度・・・評価対象年度

利用者アンケートの結果、施設利用満足度及び職員対応満足度ともに目標値にわずかに届いていないが、内容を精査するとマイナス要素はほぼゼロに等しく、全体として利用者満足度は高かったと判断している。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ①施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

評価レベル
(0～5)

3

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 今年度の指定管理費のうち天然芝の維持管理費（委託費）は全体の予算の約 63%を占めている。そのため、諸経費を可能な限り切り詰めながら経費の低減化に努めてき

た。例えば、光熱水費についていえば、全職員が毎日電気の消し忘れや水道蛇口の閉め忘れを細かくチェックし、節電・節水に努めてきた。そのため、昨年度より低減が図られた。

- ② 天然芝の維持管理以外に専門的な保守点検業務（機械警備業務、電気保安業務、浄化槽保守業務）については、再委託先と協力し、緊急の場合に迅速な対応をしてきた。また、清掃や除草については、施設職員が可能な限り自力で作業することで経費の低減化を図ってきた。
- ③ 経費の執行については概ね①で述べたが、全体として施設利用者の利便性と安全・安心を最大限考慮した予算の執行を心がけ、また極力無駄な出費を控えてきたため、最終的に非常に効果的かつ効率的な執行がなされてきたと考えている。

(単位：千円)

【支 出】		令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
光熱水費	計画	3,745	2,748	2,748	2,748	2,748	2,748
	実績	5,972	5,456	—	—	—	—
修繕費	計画	2,750	3,164	3,164	3,164	3,164	3,164
	実績	3,816	1,583	—	—	—	—
その他管理運営費	計画	39,630	48,873	48,873	48,873	48,873	48,873
	実績	39,761	46,572	—	—	—	—
計	計画	46,125	54,821	54,821	54,821	54,821	54,821
	実績	49,549	53,611	—	—	—	—

※令和7年度・・・評価対象年度

※人件費はその他管理運営費に含む

経費の低減化については、天然芝維持管理費の比重が非常に高い中で、それ以外の少ない予算を効率的に執行してきた。

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

3

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 収入を増加するための取り組みとしては、3-1-(1)-②で述べた内容と重複するが、平日 16 時から 19 時の時間帯に近郊の高校や中学の部活動を積極的に誘致してきた。その結果、マイクロバスを所有する高校サッカー部（下関商業、希望が丘高校、早鞆高校、北九州高校等々）の利用が徐々に増加し、結果として収入の増加にも繋がった。また、年度当初に年間利用調整で予定されていた大規模な大会が中止または他会場

- への変更となった際に、速やかに代替利用を確保するなどして収入の増加を図った。
- ② 使用料収入以外の収入としては、自主事業の大会等の収入や自販機収入が中心となるため、積極的に取り組んできた。
- ③ 自主事業全体の収益（自販機収入）の一部を指定管理業務に還元し、指定管理費の不足分に充当することで利用者サービスに資することができるように取り組んでいる。

(単位：千円)

【収 入】		令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
指定管理 料収入	計画		57,935	57,935	57,935	57,935	57,935
	実績		55,282	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画		629	629	629	629	629
	実績		200	—	—	—	—
計	計画		57,935	57,935	57,935	57,935	57,935
	実績		55,482	—	—	—	—

※ 令和7年度・・・評価対象年度

(単位：千円)

【収 入】	令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
使用料実績	5,977	6,077	—	—	—	—

※ 令和7年度・・・評価対象年度

- ・収入の増加についてのいくつかの取り組みが功を奏して、過去に達成することができなかった利用収入（600 万）を実現することができた。

<指定管理業務への収益還元の状況>

(単位：千円)

【実績】	令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
利益額	349	484	—	—	—	—
還元額	0	200	—	—	—	—
還元率	0%	41%	—	—	—	—

※ 令和7年度・・・評価対象年度

自主事業収入の一部を指定管理業務に還元できたので一定の評価をしているが、今年度以降も還元額の向上に一層努めていきたい。

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取り組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。

5

③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。	
【評価の理由、要因・原因分析】 ① 施設の管理運営にあたっては、職員の能力や経験を考慮して労務管理、保守管理、窓口受付、会計処理、自主事業運営等の各業務に適切な人員を配置することにより、日々の業務を合理的かつ効率的に運営してきた。また、外作業と事務処理を並行して行えるように適宜２人体制の勤務シフトにすることによって業務に支障が生じないようにしてきた。 ② 毎月初めのスタッフミーティングで業務上の諸問題等について職員同士で意見を交換しながら情報の共有や各々の資質・能力の向上に努めてきた。また、各種研修会（防火管理責任者講習会・建築物点検講習会・新予約システム説明会等）には担当職員を積極的に参加させることでそのスキルの向上を図ってきた。 ③ 本クラブ主催の硬式テニス大会「大庭産業新門司カップ」は平成 21 年から現在まで通算で 300 回以上開催しており、地域に密着した大会として高く評価されている。また、地元の少年サッカークラブ（寿山フットボールクラブ）との共催で少年少女サッカー大会を 20 年にわたって毎年開催しているが、市の内外から数多くの小学生サッカークラブが参加して活況を呈している。さらに、地元の中学校元教師でソフトテニスのコーチをしている方の協力で年に 3 回程度「新門司ソフトテニス交流大会」を開催して地域のスポーツ振興に貢献してきた。一昨年から、地元の少年サッカークラブと共催で少年サッカー教室（グラスルーツ）を毎月 1 回開講しているが、これも同様の趣旨である。その他、本クラブが運営する女子サッカークラブ「ニューウェーブ北九州レディース」を主体とした女子サッカー大会「北九州レディース招待サッカー大会」を市との共催で開催しているが、今年度より小学生も参加することとなり、将来的にはより規模の大きな大会になっていく予定である。 施設の管理運営の実施状況については、職員の人員配置が非常に合理的に行われ、尚且つ職員のスキル向上に努めてきた。また、地域の関係団体との連携や協働についても多方面にわたって実現し、その成果が施設利用者の増加や地域のスポーツ振興につながることができた。	
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。 ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	5

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 利用者の個人情報としては、旧予約システムの団体登録時に入手した個人情報（氏名・住所・電話番号など）が約 300 件あるが、これらの情報が決して外部に漏れないように厳重な管理をしており、不正な利用の防止に努めてきた。
- ② 特定の団体や個人を特別扱いすることなく常に公平な対応をしていくよう全職員に周知徹底してきた結果、これまで利用者との間で大きなトラブルを起こしたことがない。特に、年間利用調整時に競技団体（サッカー協会やラグビー協会）の利用調整をする際は、特に慎重を期して可能な限り公平かつ適切に処理をしてきた。
- ③ ②と同内容
- ④ 金銭の取り扱いについては、常に複数の人員での厳密なチェック体制をとってきた。最終的には施設長が収支の内容に不適切な点がないかをチェックし、さらに顧問税理士にも毎月確認してもらい、経理上の不備がないよう努めてきた。
- ⑤ 日常の事故防止対策として、庭球場や人工芝球技場のショートパイル及びロングパイルに損傷がないかをチェックしたり、運動場（クレイ）の整備時に小さな石を除去することで怪我の防止に努めてきた。また、夏季の熱中症対策として日除スクリーン設置や利用者への製氷機の氷を無償提供、大型扇風機の設置などの対策を講じた。
- ⑥ 施設の防犯対策として、盗撮や置き引きなどの予防として職員から利用者への呼びかけや掲示物を通じて啓発に努めてきた。また、防災対策としては、本施設が海沿いに位置しており地震や津波の際に大きな被害が想定されるため、予め防災マップを備えて緊急時避難先を確保できるよう準備してきた。
- ⑦ 事故や災害時における対応として緊急連絡網を作成し、それに基づいて最も迅速かつ適切な対応をとれるように準備してきた。今後、大きな災害や事故が発生した場合においても慌てることなく、施設として最善の措置を取れるように職員会議等で検討し合いながら緊急時に備えたい。尚、施設に起因する事故が発生した場合に備えて「施設賠償責任保険」に加入してこれに備えてきた。
・平等利用については、特定の個人や団体を特別視せず常に公平性を担保してきた。安全対策に関しても、管理運営における会計に関してミスが生じないような体制づくりをしてきたこと、また日常の事故防止についても事前・事後の対策をしてきた。危機管理対策についても、安全対策同様に事前の準備をしてきた。

【総合評価】

【全体的な評価・今後の対応等】

令和 7 年度の新門司地区スポーツ施設の指定管理に関する総合評価をするにあたって、第 1 に挙げることができるのは、施設の利用者数及び利用料収入が過去最高の数値を達成したことである。このことは、我々が本施設の指定管理をしていく上で一番の目標としているところなので、これを達成できたことは非常に高く自己評価できている。また、冒頭でも述べたように、本施設はギラヴァンツ北九州の練習拠点となっており、我々指定管理者が最善の練習環境を提供しこれを継続して支援し続けることが、最終的に「市のスポーツ推進計画」の施策 1 に掲げるところの「スポーツを通じた都市ブランド力の向上」に大きく貢献できるものと確信している。

今後、本施設の指定管理を続けていく上で、是非とも取り組んでいきたいことは、自主事業に関連した協賛金や施設内の広告看板設置による収入を増大させていくことで、これらを指定管理費に還元し、施設利用者のための環境整備（特に夏季の熱中症対策のための屋根設置など）をしていくことである。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	都市ブランド創造局スポーツ部スポーツ振興課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	北九州市民球場・三萩野野球場	施設類型	目的・機能
	所 在 地	北九州市小倉北区三萩野二丁目10-1	I	②
	設置目的	スポーツの普及及び振興を図り、市民の心身の健全な発達及び明るく豊かな市民生活を形成に資する		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	北九州野球株式会社		
	所 在 地	北九州市小倉北区三萩野二丁目10-1		
指定管理業務の内容		1 管理運営に関する業務 ・ 受付、使用許可に関する業務（利用調整、許可に係る業務） ・ 清掃、警備、建物等保守点検業務 2 その他管理運営業務 ・ 事業計画書及び収支計画書の提出 ・ 関係機関との連絡調整 ・ 地域や類似施設との連携に関する業務 3 利用促進に関する業務 ・ イベントや広報活動等による利用促進など 4 自主事業 ・ 市民のスポーツ振興に資する事業（スポーツ教室等）等の実施など		
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 (評価結果)
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	36
(1) 施設の設置目的 の達成	3	3	要求水準は概ね満たすが、プロ野球や高校野球県大会等の大規模大会未開催により目標には届いていない。一方、市民・三萩両球場を教室や練習で併用するなど、有機的な連携は図られている。	35	21
(2) 利用者の満足度	5	5	アンケートで施設満足度 99.4%、職員対応 100.0%と高く、質の高いサービスを提供。大会時の時間外開館や LAN 整備など、柔軟な対応と設備改善で利便性向上に努めている。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				30	22
(1) 経費の低減等	4	4	施設運営の効率化を図るため、清掃業務の直営化や計画的な消灯を実施し、経費節減において着実な成果を上げている。特に、芝生の管理方法を工夫し、品質を維持しつつ水道光熱費を昨年度から約 500 万円低減させるなど合理的な運営が行われている。 また、削減した光熱水費を施設の修繕に充当し、施設の保全につなげている。	20	16
(2) 収入の増加	3	3	公式戦でのキッチンカー誘致や、野球クリニック等の自主事業を積極的に展開し、多角的な収益確保に取り組んでいる	10	6

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	12
(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) の実施状況	3	3	プロ野球興行のノウハウを持つ 専門スタッフが、各種講習会を的 確に進行管理ができています。	10	6
(2) 平等利用、安全 対策、危機管理体制 など	3	3	個人情報適切に管理し、雷探知 機の貸出など安全対策も実施し されている。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる (80点以上) B：やや優れていると認められる (70点以上80点未満) C：適正であると認められる (60点以上70点未満) D：努力が必要であると認められる (50点以上60点未満) E：かなりの努力が必要であると認められる (50点未満)				合 計	100
				総合評価ランク (A～E)	B

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

要求水準は概ね満たしているが、プロ野球公式戦や高校野球県大会など大規模大会が未開催となったことから目標を大きく満たしていない状況である。大会開催などに利用者が影響される施設である特性を踏まえ、現在積極的に行われている自主事業の更なる実施が期待される。また、経費の節減や収入増加に対する取り組みによる管理運営の効率化、安全対策や危機管理体制は、適切に行われており、今後一層の取り組みが望まれる。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

適正に評価されている。

今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	70	—	—	—	—	70

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶ 1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（+5年間）を認めるもの。

※低評価のペナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶ 最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	北九州市民球場・三萩野球場
	所 在 地	北九州市小倉北区三萩野二丁目10-1
指定管理者 （自己評価者）	名 称	北九州野球株式会社
	所 在 地	北九州市小倉北区三萩野二丁目10-1
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
	☐		
	☐		
	☐		
	☐		
	☐		
	☐		
	☐		
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
ベースボールクリニック	☒	○	
ホークスペースボールスクール	☒	○	
ホークス野球塾	☒	×	球場日程確保不可
清涼飲料水等自販機設置	☐	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント						自己 評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み						
(1) 施設の設置目的の達成						評価レベル (0～5)
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。						3
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。						
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。						
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						
① ・利用者数について、要求水準は概ね満足したが、下記の理由により目標を達成できなかった。 ・ホークスの事情によりプロ野球公式戦が1試合開催となった。 （入場者数：令和6年2試合 38,612人・令和7年1試合 19,386人） ・高校野球夏の県大会が北九州市民球場で未開催となった。 ・年間利用調整で予定していた大会が相手先の都合にて直前のキャンセルとなった。 （軟式野球大会等 24日）						
② ・事前の大会運営の打合せを行い、利用団体の希望に沿って供用時間外の対応をしている。 ・必要に応じて球場内飲食売店の営業を行い、利便性の向上を図るとともに、夏は熱中症対策にもなっている。						
③ ・三萩野球場を予選会場として、 北九州市民球場を本戦会場として利用するなど、施設間の有機的な連携が図られた。						
④ ・ホームページやSNSを活用し、広報活動に努めた。 ・営業活動（特に広告営業）に際し、大会広報を合わせて行っている。						
単位：人)						
【利用者数】	令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
要求水準		25,000人	25,000人	25,000人	25,000人	25,000人
目標値		30,000人	31,000人	32,000人	33,000人	34,000人
実績	35,987人	24,990人	—	—	—	—
※ ・・・評価対象年度						

独自目標：入場者数（利用者数+観客数）

独自目標	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
目標値	123,000 人	127,000 人	131,000 人	135,000 人	139,000 人
実績	90,229 人	—	—	—	—

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

5

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 利用者アンケート等の結果、ほぼ利用者の満足が得られている。
- ② 大会主催者と事前の打ち合わせをおこない、要望には可能な限り対応し、大会終了後にもヒアリングを実施して、次回からの改善に活かしている。
- ③ 利用者からの苦情に臨機応変かつ迅速に対応している。
- ④ ホームページやSNS、開催行事看板を活用し情報提供を行った。
電話での問い合わせに対しても適切に対応できている。
- ⑤ サービスの質を維持・向上するため、下記の取り組みを行った結果、利用者のサービス向上につながった。
 - ・ 球場全体のトイレのピクトサイン設置
 - ・ 玄関ホール内に球場案内図設置
 - ・ 観客席の補修工事
 - ・ 供用時間外の柔軟な対応
 - ・ 花壇の設置などSDGsの取り組み
 - ・ 諸室のネットワーク環境の改善 LAN新設

施設利用満足度	令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
要求水準	%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%
目標値	%	99.2%	99.3%	99.4%	99.5%	99.6%
実績	92.1%	99.4%	—	—	—	—
有効回答数	144 人	311 人				

※ ・・・評価対象年度

職員対応満足度	令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
要求水準	%	80%	80%	80.0%	80.0%	80.0%
目標値	%	99.2%	99.3%	99.4%	99.5%	99.6%
実績	92.7%	100.0%	—	—	—	—
有効回答数	144人	311人				

※ ・・・評価対象年度

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

4

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 経費を効率的に低減するため、下記の取組を行った。
 - ・ 利用後の館内清掃など内製化。
 - ・ 水道代は芝生への散水で大きく変化するが、芝生にケイ酸カルシウム、バチルス菌を散布することで、芝の根が深く張り、芝生への散水量を減らすことができた。
 - ・ 利用者に影響しない範囲での消灯を実施している。
- ② 清掃業務において、内製化を進め、外注経費を大幅に減らすことができた。
- ③ ①において、水道代などの光熱費を削減した費用を施設の修繕に充てることにより、老朽化が進む本施設の保全の向上を図った。

(単位：千円)

【支 出】		令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
光熱水費	計画		15,165	15,165	15,165	15,165	15,165
	実績		12,652	—	—	—	—
修繕費	計画		5,734	5,734	5,734	5,734	5,734
	実績		8,339	—	—	—	—
その他管理運営費	計画		67,721	67,721	67,721	67,721	67,721
	実績		68,664	—	—	—	—
計	計画		88,620	88,620	88,620	88,620	88,620
	実績		89,655	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

※人件費はその他管理運営費に含む

(2) 収入の増加							評価レベル (0~5)
① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。 ② 使用料(利用料金)収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入(例:協賛金など)を獲得できているか。 ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。							3
[評価の理由、要因・原因分析] ①多くの来場者が見込めるプロ野球公式戦において、球場内売店以外の球場外にもキッチンカーを出店させ、飲食売店の増収を図っている。 ②平日の利用促進として、社会人野球や高校野球の定期戦等を積極的に誘致し、開催した。自主事業として、ベースボールクリニック、ホークスベースボールスクールを実施した。 ・市と協調して、「キャッチボールクラシック 2025 全国大会」及び直近のプロ野球引退選手による「THE LAST GAME2025」を同時開催した。							
(単位:千円)							
【収入】		令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
指定管理 料収入	計画		88,620	88,620	88,620	88,620	88,620
	実績		89,655	—	—	—	—
計	計画		88,620				
	実績		89,655	—	—	—	—
(単位:千円)							
【収入】		令和6年度 (更新前)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
使用料実績		6,909	6,273	—	—	—	—
※ ・・・評価対象年度							
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み							
(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況							評価レベル (0~5)
① 施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。 ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか(管理コストの水準、研修内容など)。 ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。							3
[評価の理由、要因・原因分析] ①合理的な人員の配置を行った。							

経験豊かな専任スタッフにより、プロ野球で培った経験をもとに試合中の進行管理を円滑に運営している。 ② 接遇向上を図るため、ロールプレイング研修、マナー研修を実施している。	
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。 ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	3
【評価の理由、要因・原因分析】 ①個人情報に関する書類は鍵のかかる書棚に保管することを徹底している。 ②、③なし ④修繕費を除いては、収支は予算内で運営できている。 ⑤施設モニタリングに基づき、毎日職員が施設安全性を確認するため巡回および点検を実施している。大会開催日は巡回を強化している。 ・利用者との事前打ち合わせを入念に行い、主催者動線、観客動線、緊急搬送時の動線など確認を徹底している。 ・携帯型雷探知機を準備し、雷による事故防止のため主催者への貸し出しを行っている。 ・監視モニターを活用し、観客席及びフィールド内の異常を確認し、異常があれば即時、主催者と連携し対応している。 ・消防設備点検を実施（年間2回） ⑥ 特になし⑦緊急時の警察・消防・設備業者への連絡体制の構築により、事件事故発生時は即座に対応できている。	

【総合評価】

【全体的な評価・今後の対応等】 ・当社設立以来のプロ野球興行、平成18年からの指定管理運営の経験を活かし、本施設の特性を踏まえた施設運営を行った。 ・利用者の立場に立ち、念入りな事前打ち合わせを行い、利用上のルールを理解していただき、市民サービス向上を念頭に利用者からの要望には可能な限り対応し、利用者には快適にご利用いただけるよう努めた。 ・利用者アンケートの結果、施設利用満足度・職員対応満足度ともに99%を超える高い評価を得ることができた。 ・老朽化が進む施設を、市民の安心・安全を守るという観点から、北九州市と協議し、施設の維持と改善を図るべく、今年度においても適宜多数の改修工事を実施した。
--

- ・引き続き、利用者に安心・安全・快適にご利用いただけるよう、施設の維持管理に努めます。利用者数を増やすべく、新たな利用団体の誘致を積極的に行う。
- ・利用者の事前打ち合わせにおいて、要望には可能な限り対応する事を前提に、施設利用上のルールを理解してもらうことに努め、老朽化した施設の維持に腐心している。各団体とは円滑にコミュニケーションがとれている。
- ・利用者数、入場者数については、ホークス公式戦が1試合少ないことにより利用者数への影響が大きいため、従来からの利用団体（年間利用）の維持をベースとして、ホークス戦誘致と新たな利用団体の誘致を積極的に行う。
- ・施設の保全を強化、グラウンドコンディションのレベル向上、接遇のレベルアップ等“現場力”の強化に注力する。
- ・SDGs 他地域貢献の面では、花壇の拡充を進めるとともに、レストラン設備を利用した「子ども食堂」の実施を検討する。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	都市ブランド創造局スポーツ部スポーツ振興課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	本城・的場池公園内スポーツ施設	施設類型	目的・機能
	所 在 地	北九州市八幡西区御開四丁目16番1号 他	I	②
	設置目的	スポーツの普及及び振興を図り、市民の心身の健全な発達及び明るく豊かな市民生活の形成に資する。		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	株式会社スピナ		
	所 在 地	北九州市八幡東区平野二丁目11番1号		
指定管理業務の内容		1 管理運営に関する業務 ・ 受付、使用許可に関する業務（利用調整、許可に係る業務） ・ 清掃、警備、建物等保守点検業務 2 その他管理運営業務 ・ 事業計画書及び収支計画書の提出 ・ 関係機関との連絡調整 ・ 地域や類似施設との連携に関する業務 3 利用促進に関する業務 ・ イベントや広報活動等による利用促進など 4 自主事業 ・ 市民のスポーツ振興に資する事業（スポーツ教室等）等の実施など		
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 (評価結果)
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	43
(1) 施設の設置目的 の達成	5	4	利用者数は、的場池体育館の5か月間の休館がありながら、要求水準、独自目標ともに満たしており、利用促進が図られている。 一方、天然芝である本城運動場のさらなる一般利用の促進が望まれる。 本城陸上競技場の SNS は、利用者が求める情報のニーズを的確に発信した結果、フォロワーが運用開始後4か月で1000人を超えるなど、情報発信に努めた。	35	28
(2) 利用者の満足度	4	5	利用者アンケートにおいて、施設利用満足度 92.7%、職員対応満足度 99.2%という極めて高い評価を得ており、質の高いサービスが提供されている。 日常利用者とのコミュニケーションを重視した運営により、地域に根ざした満足度の高い施設として評価を得ている	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				30	18
(1) 経費の低減等	3	3	軽微な修繕や除草については職員で対応することで、外部委託費の削減に努めた。 清掃、警備、設備保守等の再委託業務については、必要な水準を確保しつつ、過剰な仕様とならないよう委託内容を精査した。 経費の執行にあたっては、年間計画を作成し必要性や優先順位を見極め、適切に支出を管理した。	20	12
(2) 収入の増加	3	3	大会利用や合宿利用の積極的な受け入れに加え、大会利用後に空き時間が発生した場合には、専用利用する団体へ営業を行うなど収入増加に努めた。	10	6

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	14
(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) の実施状況	4	4	大会開催時や繁忙期に応じて 人員を重点的に配置するなど、大 会主催者や競技団体との緊密な 連携により、円滑な大会運営と利 用者サービスの向上を実現した。 地域団体や利用者との関係構 築を通じて、継続的な利用促進と 地域密着型の運営を行った。 これらの対応は市の要求する 水準を上回るものである。	10	8
(2) 平等利用、安全 対策、危機管理体 制 など	4	3	個人情報の取り扱いについて は、規定に基づき収集・管理を適 切に行っている。 また、全ての利用者が公平に利 用できるように、大会利用と一般 利用の調整を適切に行い、利用機 会の確保に努めた。 概ね市の求める水準であり、適 切に管理されている。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる (80点以上) B：やや優れていると認められる (70点以上80点未満) C：適正であると認められる (60点以上70点未満) D：努力が必要であると認められる (50点以上60点未満) E：かなりの努力が必要であると認められる (50点未満)				合 計	100
				総合評価ランク (A～E)	

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

SNS について、利用者ニーズを的確に把握したうえで情報発信をしており、施設の利便性向上に効果的な運用がなされている。利用者アンケートでは施設利用満足度 92.7%、職員対応満足度 99.2%と極めて高い評価を得ており、オンライン調査や新予約サービス導入時の丁寧な支援など、利用者目線に立ったサービス提供が行われている。そして、これらの取り組みの成果が利用者の増加として表れている。

また、修繕や除草の内製化、委託業務や経費執行の見直しにより、効率的かつ適切な管理運営を実施している。安全管理や個人情報保護、公平な利用調整にも適切に取り組んでおり、総合的に優れた管理運営が行われている。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

市と指定管理者の評価レベルの相違については課題・認識を共有し、引き続き市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	75	—	—	—	—	75

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（+5年間）を認めるもの。

※低評価のペナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	本城・的場池公園内スポーツ施設
	所 在 地	北九州市八幡西区御開四丁目 16 番 1 号他
指定管理者 （自己評価者）	名 称	株式会社スピナ
	所 在 地	北九州市八幡東区平野二丁目 11 番 1 号
指定期間		令和 7 年 4 月 1 日～令和 1 2 年 3 月 3 1 日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
体験イベント実施事業（未経験者）	☒	×	令和 8 年度以降実施予定
講師を招いたトレーニング事業	☒	○	
健康増進運動プログラム事業	☒	○	
健康食育メニュー講座事業	☒	×	令和 8 年度以降実施予定
子ども向けイベント開催事業	☒	○	
学校連携支援事業（授業・部活動）	☒	○	
地域交流イベント事業	☒	×	令和 8 年度以降実施予定
独自アンケート実施事業	☒	○	
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
スポーツ教室事業	☒	○	
体操教室事業（ヨガ・ピラティス等）	☒	○	
文化教室事業（手話等）	☒	○	
用品レンタル事業	☒	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント	自己評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み	
(1) 施設の設置目的の達成 ① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。	評価レベル (0～5) 5
【評価の理由、要因・原因分析】 ① 計画に則った管理運営および目標達成 本施設においては、設置目的である「スポーツの普及・振興」「市民の健康増進」「地域交流の促進」に基づき、基本理念である「地域と共にウェルビーイングなスポーツ交流拠点の実現」を軸に、計画に沿った管理運営を実施した。 本城陸上競技場においては、市内唯一の第2種公認競技場として各種大会の円滑な運営を支え、競技者から一般利用者までスポーツに親しむ幅広いニーズに対応した。また、海外チームの合宿の受け入れなど、主幹部門と綿密な打合せを行い快適に利用いただけるよう努めた。 的場池スポーツ施設においては、日常利用から大会利用まで安定した運営を行い、地域スポーツ拠点としての機能を果たした。また、大会機材の不調時の迅速な対応など、現場対応力を活かした施設維持管理により、安全かつ安定した施設運営を実現した。 さらに、両施設共通の取組として、椅子・机の入替や保護カバーの設置による安全対策、グラウンドの小石除去や設備不具合への迅速対応を実施し、施設全体の安全性および機能維持の向上を図った。これらにより、施設特性を活かした運営を行い、設置目的に沿った成果を着実に達成した。 ② 利用者増加および利便性向上の取組み 本施設においては、SNS（LINE・Instagram）を活用した情報発信を新たに開始し、従来のホームページ中心の広報から拡張することで、利用者の利便性向上を図った。 本城陸上競技場では、利用者数が前年に比べて約2.6%増加した。特に大型合宿を受け入れることで施設の利用を促進し、空き時間を活用した営業活動によって新たな利用機会を創出した。また自主イベントで「手作り凧あげ大会」を開催し、これまで本施設を利用したことのない子どもたちが施設を訪れる機会を設けた。さらに、券売機の導入により手続きの簡素化を図り、利用者の利便性向上に寄与した。 本城球場および本城運動場においては、それぞれ約4.4%増、約24.8%増と前年を上回る実績となり、施設全体として利用促進の成果を上げた。	

的場池スポーツ施設においては、地域利用を中心とした安定的な利用確保に努め、継続的な利用実績を維持した。また、大会開催時には駐車場混雑対策として、主催者との事前打合せによる駐車場見取り図の提供および駐車区画数の明示を徹底し、混雑緩和と円滑な運営を実現した。さらに、新予約システム導入時には個別支援を行い、利用者の負担軽減と利便性向上を図った。

③ 施設間連携の取組みと効果

本施設群においては、本城スポーツ施設と的場池スポーツ施設を一体的に管理する特性を活かし、施設間の有機的な連携を図った。大会開催時や利用状況に応じた調整を行い、利用者ニーズに応じた柔軟な受入体制を構築した。これにより、施設全体として効率的かつ効果的な管理運営を実現するとともに、利用機会の確保および利便性向上につなげた。

また、本城スポーツ施設で使用されていた月次の費用確認フォーマットを他の施設にも展開し、活用することで毎月の執行状況を確認し合い、離れた2つの施設の運営を円滑に行った。

④ 効果的な営業・広報活動とその成果

本城スポーツ施設においては、学生をはじめ若年層の利用が多いため、SNS（LINE・Instagram）を活用した情報発信を実施した。専用利用日や大会情報をタイムリーに発信することで、競技利用者への情報提供の充実を図った。

的場池スポーツ施設においては、シニアの利用者も多いことから掲示物や丁寧な窓口対応等を通じて自主事業や地域利用に関する情報提供を行い、地域住民への周知および利用促進につなげた。

また、両施設共通の取組として、空き時間を活用した営業活動や地域資源を活かした企画を実施し、新たな利用価値の創出を図った。

これらの取組により、本城陸上競技場の SNS フォロワー数は開設から4か月で1,026人に達し、施設認知の向上および利用促進に寄与した。

(単位：人)

【利用者数】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	施設統合の 為情報なし	279,000	279,000	279,000	279,000	279,000
目標値		279,000	280,000	281,000	282,000	283,000
実績		331,257	—	—	—	—

独自目標 SNS フォロワー数	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
目標値(人)	500	1,100	1,200	1,300	1,400
実績	1026	—	—	—	—
達成率	200%				

※ ・・・評価対象年度

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言える

か。	4
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。	
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。	
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。	
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。	
[評価の理由、要因・原因分析]	
① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。 本施設においては、利用者満足度の向上を目的として、接遇の向上および利用環境の整備に継続的に取り組んだ。 本城スポーツ施設においては、大会利用者および個人利用者双方に対し円滑な運営と丁寧な対応を実施し、「利用しやすい」「対応が良い」といった評価を得ている。 的場池スポーツ施設においては、日常利用者とのコミュニケーションを重視した運営により、地域に根ざした満足度の高い施設として評価を得ている。 これらの結果から、施設利用者の満足は概ね得られていると判断できる。	
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。 利用者の意見については、窓口対応や日常的なコミュニケーション、アンケート等を通じて把握したうえで、職員間で共有し、内容に応じた対応方針を整理した。 本城スポーツ施設においては、大会主催者との事前調整の中で寄せられた意見を踏まえ、控室の配置を考慮するなど運営方法の改善に反映させた。 的場池スポーツ施設においては、従来の紙アンケートに加え、独自にオンライン形式のアンケートを導入し、QRコードをロビーや休憩スペース等に掲示することで、意見収集の機会拡充を図った。そのうえで、清掃状況や利用環境に関する要望に対し、スリッパの整理整頓や利用マナーの周知強化など具体的な改善を実施した。 これらの取組により、利用者の声を把握するだけでなく、改善につなげ、その結果を運営に反映する一連のサイクルを確立し、継続的なサービス向上を実現した。	
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。 苦情対応については、内容を正確に把握したうえで迅速かつ丁寧に対応し、必要に応じて再発防止策を講じた。本城スポーツ施設においては、大会運営時の競技場と運動場の利用調整や、大会機材の不具合に対し迅速に対応することで、利用者の不満解消に努めた。 的場池スポーツ施設においては、日常利用における軽微な苦情にも丁寧に対応し、安心して利用できる環境の維持に努めた。また、対応内容を職員間で共有することで、類似事案の未然防止および対応力向上を図った。	
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。 情報提供については、ホームページに加え、SNS（LINE・Instagram）を活用した多面的な情報発信を実施した。 本城スポーツ施設においては、専用利用日や大会情報をタイムリーに発信し、競技利用者への利便性向上を図った。 的場池スポーツ施設では、自主事業や地域利用に関する情報を積極的に発信し、地域	

住民への周知を強化した。また、新予約システム導入時には、利用者が登録する段階から職員が共に操作しながらサポートした。このように、一人ひとりの利用者に対して個別の支援を行うことで、円滑な利用開始につなげた。

これにより、必要な情報を適切に提供できる体制を整備した。

⑤ その他サービスの質の維持・向上の具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

サービスの質の維持・向上に向け、日常的な声掛けや丁寧な窓口対応を行うとともに、施設の点検・修繕を適切に実施した。

本城スポーツ施設においては、競技環境の維持管理のため、安全かつ快適な利用環境の確保に努めた。特に芝生管理の面では、今年度が初めての運用となるが、利用者から高い評価を得ている。

的場池スポーツ施設においては、体育館休館中に整理整頓の強化や備品更新、施設内環境の改善を行い、利用者の快適性向上を図った。

これらの取組により、利用者満足度の維持・向上および継続利用の促進につながる成果を得た。

施設利用満足度	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	施設統合の 為情報なし	80%	80%	80%	80%	80%
目標値		94%	94.5%	95%	95%	95%
実績		92.7%	—	—	—	—
有効回答数		620人				

※ ☐・・・評価対象年度

職員対応満足度	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	施設統合の 為情報なし	80%	80%	80%	80%	80%
目標値		95%	95.5%	95.5%	95.5%	95.5%
実績		99.2%	—	—	—	—
有効回答数		618人				

※ ☐・・・評価対象年度

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

評価レベル
(0～5)

3

〔評価の理由、要因・原因分析〕

① 施設の管理運営に関し、経費を効率的に低減するための取組み

本施設においては、修繕対応の内製化および既存資源の有効活用により、経費の効率的な低減を図った。

本城スポーツ施設においては、トイレセンサーの電池交換やスターターピストルの部品交換を職員で対応することで外部委託費を削減するとともに、迅速な復旧を実現した。

的場池スポーツ施設においては、ブラインドが破損した際に、利用頻度の少ない会議室から流用するなど、備品の流用や延命化を図ることでコスト抑制に努めた。

また、両施設において軽微な修繕や職員で対応可能なものは内製化することで、外部委託費の削減と対応力向上を両立した。

これらの取組により、経費低減において具体的かつ実効性のある成果を上げた。

② 再委託業務の適正管理とコスト抑制

清掃、警備、設備保守点検等の再委託業務については、業務内容および実施頻度を精査し、必要な水準を確保しつつ過剰な仕様とならないよう委託内容を適正に管理した。

本城陸上競技場においては、大会利用状況に応じて芝生のメンテナンスを入れるなど柔軟な業務調整を行い、効率的な委託運用を実施した。

的場池スポーツ施設においては、大会利用時に使用する駐車場の草刈りを内製化するなど、委託業務を適正に管理した。

これにより、サービス水準を維持しながら経費の最小化を実現した。

③ 経費の効果的・効率的な執行

経費執行にあたっては、必要性や優先順位をしっかりと見極め、無駄のない運用を徹底した。

本城スポーツ施設では、設備管理や運営のために年間計画を作成し、効率的な資源配分を行った。そのうえで、毎月管理することで必要な支出を適切に実施した。

的場池体育館では、新たに導入した空調システムについて、WBGTだけでなく利用状況や利用者層に応じて細かく対応し、日常的なコスト意識の徹底により光熱費の削減に取り組んだ。

さらに、両施設では備品の延命化や計画的な修繕を行い、突発的な支出を抑えつつ安定した施設運営ができるよう努めた。この結果として、高いサービス水準を維持しながら効率的で効果的な経費執行が実現した。

(単位：千円)

【支 出】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
光熱水費	計画	施設統合 の為情報 なし	22,247	22,247	22,247	22,247	22,247
	実績		18,009	—	—	—	—
修繕費	計画		28,149	15,149	15,149	15,149	15,149
	実績		36,734	—	—	—	—
その他管 理運営費	計画		90,955	90,955	90,955	90,955	90,955
	実績		90,775	—	—	—	—
計	計画		141,351	128,351	128,351	128,351	128,351
	実績		145,518	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

※人件費はその他管理運営費に含む

(2) 収入の増加	評価レベル (0～5)
① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。	3
② 使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。	
③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。	

〔評価の理由、要因・原因分析〕

① 収入を増加するための具体的な取組み

本施設においては、利用促進および収入増加を目的として、広報強化と営業活動の両面から取組を実施した。

本城スポーツ施設においては、大会利用や合宿利用の積極的な受入れに加え、大会利用後に空き時間が発生した場合に、専用利用する団体へ営業活動を行うことで、収入増加に努めた。

的場池スポーツ施設においては、地域利用を中心とした継続的な利用者が多いことから、日々の声掛けなど良好な関係を築くことで、安定的な利用につながる運営を実施した。

また、両施設において SNS(LINE・Instagram)を活用した情報発信を強化し、施設認知の向上および新規利用者の獲得を図った。

これらの取組により、利用機会の拡大と収入増加につながる成果を得た。

② 自主事業および外部収入の確保

本施設においては、使用料収入に加え、体操教室などの実施により収入の多角化を図った。

本城スポーツ施設においては、大会等の専用利用による利用料金収入の増加を図るとともに、ラインペイントを行い自主事業収入の増加に取り組んだ。

的場池スポーツ施設においては、スポーツ教室を継続的に実施することで、自主事業収入の安定確保につなげた。

また、両施設において、イベント実施や取組にあたり関係団体との連携を図ることで、協賛や外部資源の活用にも取り組んだ。

これにより、利用料金収入以外の収入確保および収益基盤の強化を図った。

③ 収益の活用および還元

自主事業等による収益については、施設全体のサービス向上および魅力向上につながる取組に活用した。

本城スポーツ施設においては、競技環境の維持管理や備品の更新に活用し、安全で快適な利用環境の確保につなげた。

的場池スポーツ施設においては、利用環境の改善や備品整備等に活用し、地域利用者の利便性向上を図った。

また、両施設において、広報強化や自主事業の充実に再投資することで、利用促進と収入増加の好循環を構築した。

これらにより、収益を活用したサービス向上および持続可能な施設運営を実現した。

(単位：千円)

【収 入】		6 年度 (更新前)	7 年度 (1 年目)	8 年度 (2 年目)	9 年度 (3 年目)	10 年度 (4 年目)	11 年度 (5 年目)
指定管理 料収入	計画	施設統合 の為情報 なし	141,351	126,899	126,899	126,899	126,899
	実績		146,431	—	—	—	—
計	計画		141,351	126,899	126,899	126,899	126,899
	実績		146,431	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

(単位：千円)

【使用料 収入】	6 年度 (更新前)	7 年度 (1 年目)	8 年度 (2 年目)	9 年度 (3 年目)	10 年度 (4 年目)	11 年度 (5 年目)
使用料実績	施設統合の為情報無	15,556	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み		
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況		評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。		4
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。		
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。		
【評価の理由、要因・原因分析】		
① 人員配置の合理性		
本施設においては、利用状況や業務内容に応じた適正な人員配置を行い、効率的かつ安定的な施設運営を実施した。		
本城スポーツ施設においては、大会開催時や繁忙期に応じて人員を重点的に配置し、競技運営および安全管理に支障が生じない体制を維持し、経理事務などをスピナ本部に集約することにより施設運営に専念する時間を確保した。		
的場池スポーツ施設においては、日常利用を中心とした運営形態に応じて、必要最小限かつ効果的な人員配置を行い、効率的な施設管理を実現した。		
また、両施設において、複数施設を一体的に管理する特性を活かし、状況に応じた応援体制を構築することで、限られた人員の中でも柔軟かつ合理的な運営を行った。		
これにより、利用者サービスの質を維持しながら、効率的な人員運用を実現した。		
② 職員の資質・能力向上の取組み		
職員の資質・能力向上に向け、日常業務を通じた指導および情報共有を継続的に実施した。		
本城陸上競技場においては、大会対応や利用者対応を通じて実務経験を積ませることで、現場対応力の向上を図った。		
的場池スポーツ施設においては、日常的な窓口対応を通じて接遇力の向上を図るとと		

もに、利用者目線に立った対応の徹底に努めた。 また、両施設において、修繕対応の内製化や業務改善の取組を通じて、職員の実務スキルおよびコスト意識の向上を図った。 これにより、職員一人ひとりの対応品質の向上と、組織全体の運営力強化につなげた。 ③ 地域・関係団体との連携・協働 地域団体および関係機関との連携を図り、地域に根ざした施設運営を推進した。 本城スポーツ施設においては、大会主催者や競技団体との連携により、円滑な大会運営と利用者サービスの向上を実現した。また地元自治区のイベントでは、事前に打ち合わせを行い、机の貸し出しを行うなど貢献した。 的場池スポーツ施設においては、地域団体や利用者との関係構築を通じて、継続的な利用促進と地域密着型の運営を行った。 また、両施設において、関係機関と連携した施設管理や課題対応を行うことで、利用環境の改善および安全性の向上を図った。 これにより、公共施設として求められる役割を果たすとともに、地域との信頼関係の構築につなげた。	
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。 ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	4
【評価の理由、要因・原因分析】 ① 個人情報保護 本施設においては、利用者の個人情報について関係法令および社内規程に基づき適切に管理し、情報漏えいや不正利用の防止に努めた。 本城スポーツ施設および的場池スポーツ施設の双方において、取扱範囲の明確化や管理責任の所在を明確にするとともに、書類およびデータの適正管理を徹底した。 これにより、個人情報保護に関する適正な運用を継続的に実施した。 ② 平等利用の確保 本施設は利用者を限定しない施設として、すべての利用者が公平に利用できるよう配慮した運営を行った。 本城スポーツ施設においては、大会利用と一般利用の調整を適切に行い、利用機会の確保に努めた。 的場池スポーツ施設においては、地域利用者を中心に、利用ルールの周知および公平	

な運用を徹底した。

これにより、特定の利用者に偏らない公平性を確保した施設運営を実現した。

③ 利用者選定の公平性

大会利用や専用利用においては、利用条件および手続きに基づき、公平かつ適切な利用者選定を実施した。

本城スポーツ施設においては、競技団体等との調整を行いながら、適正な利用割当を行った。

的場池スポーツ施設においては、利用申請に基づき公平性を確保した運用を実施した。

これにより、利用機会の公平性を確保した。

④ 収支の適正管理

施設の管理運営に係る収支については、関係規程に基づき適正に処理し、不適切な支出が生じないように管理を徹底した。

本城スポーツ施設においては、本年度より弊社が管理を担当しており、券売機の導入にあたっては本社経理課が運用ルールを確認した上で、日々の運用を行っている。

経費執行の際には、内容精査および必要性の確認を行い、透明性および適正性の確保に努めた。

これにより、健全な財務管理体制を維持した。

⑤ 日常の安全対策

日常の事故防止対策として、施設設備の定期点検や巡回確認を実施し、修繕が必要な箇所を早期に発見することで安全管理の徹底を図った。

本城スポーツ施設では、競技環境の維持やグラウンド整備に努め、安全確保に力を入れた。

的場池スポーツ施設では、施設長が応急手当普及員の資格を取得し、緊急時の対応について職員に教授できる体制を整えた。また、備品更新や利用環境改善にも取り組み、安全で快適な利用環境を提供した。

さらに、両施設では WBGT 値の掲示や設備点検の徹底によって事故未然防止にも努めた。

⑥ 防犯・防災および危機管理体制

防犯および防災対策については、緊急時を想定した体制整備を行うとともに、関係機関との連携を図りながら適切な危機管理体制を構築した。

本施設において、日常的な巡回や不安全箇所がないか安全確認を実施するとともに、無断駐車対策等の防犯対策を講じた。

これにより、安全・安心な施設運営を継続的に実現した。

⑦ 事故・災害時の対応

事故発生時や非常災害時においては、迅速かつ適切な対応が行えるよう、対応手順の共有および体制整備を行った。

本城スポーツ施設においては、大会時のトラブルや設備不具合に対し迅速な対応を実施した。

的場池スポーツ施設においては、日常利用時の事故対応に備えた体制を整備し、利用者の安全確保に努めた。

また、両施設において職員間で情報共有を行い、突発的な事象にも適切に対応できる体制を確保した。これにより、利用者の安全を最優先とした運営を実現した。

【総合評価】

〔全体的な評価・今後の対応等〕

本施設においては、設置目的である「スポーツの普及・振興」「市民の健康増進」「地域交流の促進」に基づき、計画に沿った適正な管理運営を実施した。

本城陸上競技場では、市内唯一の第2種公認競技場として大会利用を中心とした広域的な利用に対応し、安定した施設運営および利用促進を実現した。また、「手作り凧揚げ大会」を実施することで、これまで利用したことのない層への施設利用の機会を提供し、新たな利用者増へ繋げるきっかけづくりをした。

さらに、本城施設所長の事務業務をスピナ本部で行うことで、施設管理に費やす時間が増えた。

的場池スポーツ施設では、地域密着型施設として日常利用を中心とした安定的な運営を行い、継続的な利用確保と利用者満足度の向上につなげた。

両施設では SNS を活用した情報発信や営業活動により利用者数の増加を図りつつ、駐車場混雑対策や予約システム導入時の個別支援など、利用者目線に立った取り組みも実施し利便性向上に努めた。また、安全対策として設備点検や備品更新を計画的に行い、日常的な巡回や環境整備を徹底することで、安全で快適な利用環境の確保に努めた。

経費面では修繕対応の内製化や既存資源の有効活用によるコスト削減が図られたほか、効率的な予算執行が実現されており、その結果サービス水準の維持と効率性の向上を両立した。加えて地域団体や関係機関との連携を図りながら施設運営を行うことで、公共施設として求められる役割を果たした。

これらの取り組みにより、有効性・効率性・適正性の各観点においてバランスの取れた施設運営が行われており、その結果として利用者満足度は維持・向上および持続可能な運営基盤の構築につながったものと評価できる。

今後は、多様化する利用者ニーズへの対応としてサービス充実を図るとともに SNS 等による情報発信強化、自主事業拡充によってさらなる利用促進と収入確保の強化を図る。

また老朽化設備への計画的な対応や安全対策の強化を継続し、職員の対応力向上及び地域連携の深化によって、一層魅力ある施設運営へと推進していく。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	都市ブランド創造局スポーツ部スポーツ振興課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	東部地域スポーツ施設	施設類型	目的・機能
	所 在 地	北九州市小倉北区三萩野三丁目3番1号他	I	②
	設置目的	スポーツの普及及び振興を図り、市民の心身の健全な発達及び明るく豊かな市民生活を形成に資する		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	北九州スポーツネットワーク共同事業体 共同事業体 代表者 コナミスポーツ株式会社		
	所 在 地	東京都品川区東品川四丁目10番1号		
指定管理業務の内容		1 管理運営に関する業務 ・ 受付、使用許可に関する業務（利用調整、許可に係る業務） ・ 清掃、警備、建物等保守点検業務 2 その他管理運営業務 ・ 事業計画書及び収支計画書の提出 ・ 関係機関との連絡調整 ・ 地域や類似施設との連携に関する業務 3 利用促進に関する業務 ・ イベントや広報活動等による利用促進など 4 自主事業 ・ 市民のスポーツ振興に資する事業（スポーツ教室等）等の実施など		
指定期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 (評価結果)
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	43
(1) 施設の設置目的 の達成	4	4	地域行事へ主体的な参画やInstagram等のSNSの効果的な情報発信による積極的な広報・周知活動、多彩な自主事業の実施を行っている。そのため、一部施設の工事による休館に関わらず、要求水準を満たし、独自目標と同等の利用者数を確保するなど、利用促進につなげている。	35	28
(2) 利用者の満足度	5	5	施設満足度 94.5%、職員対応 99.1%と極めて高く、質の高いサービスを提供している。利用者の意見を反映した熱中症対策（ミストシャワー設置等）や、SNS等での積極的な情報発信も行っている。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				30	22
(1) 経費の低減等	4	4	備品の集中購入やガス会社との特約締結などにより、運営経費の低減を図っており、体育館の空調設備新設による光熱水費等増加にも関わらず、計画に対して7%を削減している。さらに、日常の維持管理における地元企業への再委託により、緊急的な事案への対応や交通費の削減など、効率的な管理に努めている。	20	16
(2) 収入の増加	3	3	多彩な自主事業を展開し、収入の増加に努めている。特に令和7年度は、キッズダンスをはじめ、健康麻雀など新たな取り組みを行っている。	10	6

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	12
(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) の実施状況	4	3	広域に分散する複数の指定管理施設に対し、エリア担当制を導入し、合理的な人員配置を行っている。また、職員の資質や能力向上を行っている。ほか、関連する市民センター・図書館・区役所や出張所と連携した連絡会議や地域住民との花壇整備などを実施している。概ね市の求める水準での適切な管理がされている。	10	6
(2) 平等利用、安全 対策、危機管理体制 など	4	3	平等利用の推進に向け、新規採用職員を対象とした「スタートアップ研修」を実施し、公共施設としての公平・公正な運営理念の浸透を図っている。また、利用者が平等・安全に施設を利用できるよう取り組んでいる。概ね市の求める水準での適切な管理がされている。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる (80点以上) B：やや優れていると認められる (70点以上80点未満) C：適正であると認められる (60点以上70点未満) D：努力が必要であると認められる (50点以上60点未満) E：かなりの努力が必要であると認められる (50点未満)				合 計	100
				総合評価ランク (A～E)	B

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

積極的な広報活動と魅力ある自主事業の展開により、利用促進と収益向上の双方で着実な成果を挙げている。アンケートの極めて高い数値や迅速な設備改善からは、質の高い接遇と利用者目線の運営姿勢が伺える。また、社用車導入による管理体制の強化や、市内企業優先発注による地域貢献、職員研修や合同防災訓練を通じた公共性・安全性の確保など、多方面において創意工夫を凝らした運営がなされている。自己評価との相違はなく、指定管理者としての責務を極めて誠実に遂行していると評価する。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

市と指定管理者の評価レベルの相違については課題・認識を共有し、引き続き市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	77	—	—	—	—	77

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶ 1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（＋5年間）を認めるもの。

※低評価のペナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶ 最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	東部地域スポーツ施設
	所 在 地	北九州市小倉北区三萩野三丁目3番1号他
指定管理者 （自己評価者）	名 称	北九州スポーツネットワーク共同事業体 共同事業体 代表者 コナミスポーツ株式会社
	所 在 地	東京都品川区東品川四丁目10番1号
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
トップアスリート事業	☒	○	
館内サイン更新事業	☒	○	
施設備品更新事業	☒	○	
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
運動教室事業	☒	○	
自動販売機事業	☒	○	
プロショップ販売事業	☒	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。